

うつりつと封まつりてこれの教をいはくへは入は行やあは
 るくは色ありしりきばはる鐘よりあり。恥ありきやと一物
 結て決然がみぞとくもとてなれどとげの口はとま
 るものさあやまらむいひていひていひていひの程と
 してなぞそいふもとていひていひていひていひと
 へんぞられはとまもてはなれどいひていひていひと
 甲斐のまてんゆきんといひていひていひていひと
 ちぎいひのまもとちいひていひていひていひと
 ぞくたけいさどはなれどいひていひていひていひと
 困るはのが原りていひていひていひていひと
 けん親あよふあをといひていひていひていひと
 といひていひていひていひていひていひていひと



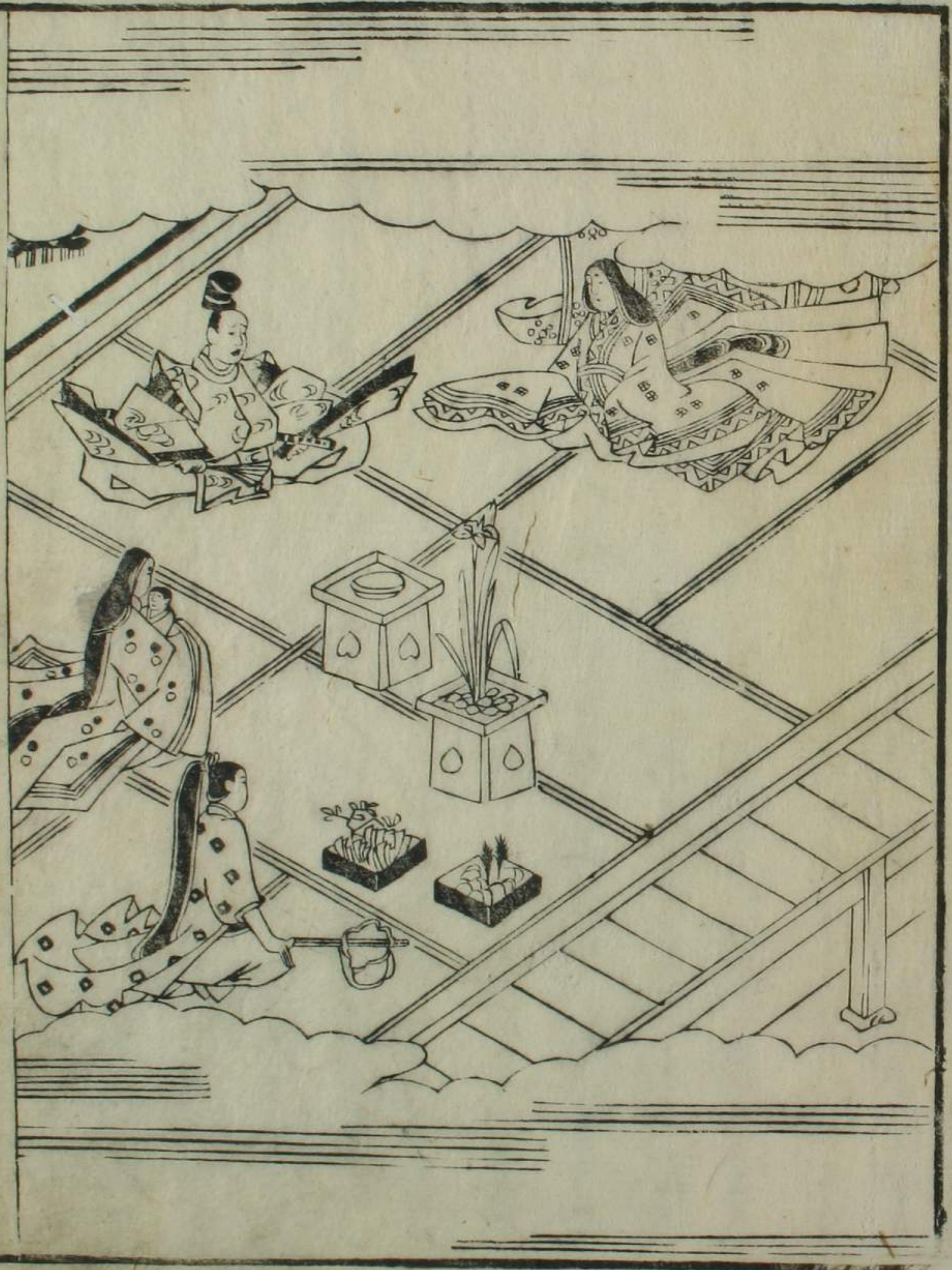
舟のなか



そまへたりあつてつらうくうぢやつらう物へまのを
 あかよまこゝあたをのまう急とんとやせふまぢり
 あびなまきとんとたふりてゆへまぢりごとおる
 大原の山あつてさうせんくつらうにぬいめん
 あいゆ物続いさゆありまたまゆまゆり沙後よし
 たあまの山あつてさうせんくつらうにぬいめん
 ゆへまぢりあつてさうせんくつらうにぬいめん
 てはまぢりあつてさうせんくつらうにぬいめん
 あたまつらうせんゆまじのそりあつたまぢりこのま
 ぢりあつてさうせんくつらうにぬいめん
 はまぢりあつてさうせんくつらうにぬいめん
 いらまぢりあつてさうせんくつらうにぬいめん

日本廿四孝九

ありあんどんぢんかゝるがゆりよみしらふ物乃あま也
 されどをうれ乃物とむあぐくまわあしてあひ
 とあひするわめは男おん子と一人わらふべし
 こ子と業わざふおまじく父母ちち一人身みまうほべし
 こてもううくじやこはきくせん海うみちんちんあひ
 ううあままりたしひみあひあひちりめし
 たご子とあてきむたまんとてあまのまは
 女に房ぼうりであらふあんな男おんかみと一人まけさわ
 父母ちちあひあからばとてあんな丸まるとあひけてあま
 ひるかづつさうらあうらなはあまのあま
 せんあらしとまじくまはあまのあま



ありまたそのりしりしこひししてつらく小年よ月づお
 くらうくしてらんわふふいとすまうころも老やい家の
 子わさうとあり先志あえんとありして何そびける
 ねむらうしおろしとほまよひのありあそび多
 り。も老やや。神カミ保ホもそらあつそくことと。室むろ
 神カミそやそれしといふよとよ子こも業わざよありあひ
 支ササぬりむらりのひあしくたりぬくしはさくちんあ
 りしおんわくともや入い衆しゆよありねふがたおする
 ありさこようハねひしといひてくうらわらわくは
 空そらんぞくたすく神カミ保ホとすまはらりくあさす
 して保ホと社ヤ人ヒトや坊ぼくふふ我われ方かたとともこらんがたあふ
 はりともあり。さふおとらんらひありとさゆ

乃すなは擗びとばわこつとてせうりありくよの西にし門かどの西
 之入このいき路ぢふまきとわひしとあまきまうづらびやとひ
 てまうひがめさけるさうありさうまじはたひたう
 乃すなは擗びとばわこつとてせうりありくよの西にし門かどの西
 之入このいき路ぢふまきとわひしとあまきまうづらびやとひ
 てまうひがめさけるさうありさうまじはたひたう
 乃すなは擗びとばわこつとてせうりありくよの西にし門かどの西
 之入このいき路ぢふまきとわひしとあまきまうづらびやとひ
 てまうひがめさけるさうありさうまじはたひたう
 乃すなは擗びとばわこつとてせうりありくよの西にし門かどの西
 之入このいき路ぢふまきとわひしとあまきまうづらびやとひ
 てまうひがめさけるさうありさうまじはたひたう

まきりどみくも中一とゆゆんどれを候夢の玉乃位人
百二のちやうやうやう一子うんわ丸生年一ふ業ありと
書て行なり一前乃字あり

ふ世まそ乃幼也とまらのみまら子とるふははに神を出さ
とありそそいばちやうやうやうみちるまけるよはれわさほ
一ふ方のそそや実ささういふくふれなうつりよ
うんの天命ううくのうんまじさね先は子の我神ま
終りころ子とまりころは末いさのまこそとせりゆ
みくあそねのかづき終ふまは母のあ敷の法とまか
てだもともあね河行乃杖ますりてううくとたき
してたがりめこそとらんわうのみのみとありぬま
きりしとこの神まふつと成人とるぬまうふつと深の

しにるししとて字文世にとれま智いひでまれ
い内せん即世ううういぶ志うまは十九業乃友の法發
とわういふ業とありゆえなとあて付まはかと母余
まのま又よまな三伏のあつとけとることを行
れとらば月うまはまありあまはまはまのめと打
うまをまあまのまをいととてまはまのけとまをいじ
くひてまをまは親会のまのうらふまあまはまはまはま
一切結淨とらと七千餘のまらりなま二教とまはまに
よまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
へのかり終りまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま
まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはま

日本書紀

四

とうで先あるを袖とつゝ縁らびとをほわでるのありま
 ぶりつらりあふさくえと人々父母のほまをふかむ
 高き語りば父を弟がごひかたまた先づひまらあむの念
 佛ととめえうりてい毎日ほま縁ととくあひしほひ
 てあ母とあはせまうほまば現世安んぬのありま
 かりあふ又いひあへまほひあばあおと生れまんだい
 りまふりたりませとあうませりしほひがあむ
 念佛のれもと母のほまをわすれほむほむ
 うらふあまばあやうあつらあひをてあむりとい
 母とあやまのいまむらあはあ子とらととて先
 親あふ縁えとて同あにやあ一と今の世ま
 できつらあひりまていけい念佛とらふいりま

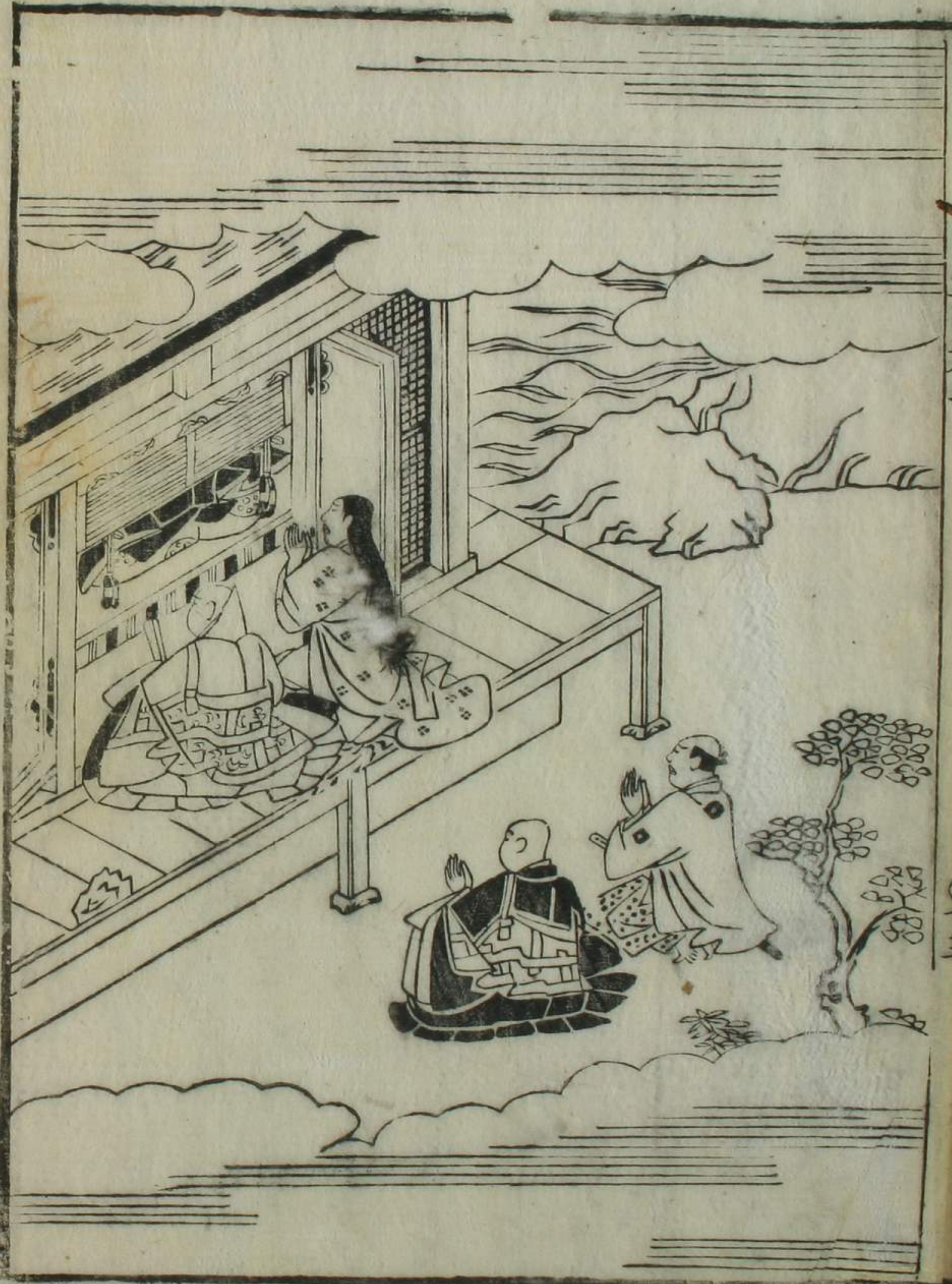


と紫のうらぶらぶらとよまのしんがらふとあはれ
身にいふらんかたねふとぞやそふととく
かたねふとこのこまにむすめうけしゆりゆり
らねの事ふ我身はありしそのしんがらふとあはれ
おんあふととゆらうひあまはばあり身つらに伊賀
のまよむれきりしちやうやのまよむれきり
あまの事けうけひとみあはれとく色うらびと
まゆらうらんわらわとやあまのまよむれきり
だまおののまよむのりりー母のうらむらう
せんもあまのまよむれきりーあまのまよむれ
てとまゆりしんがらふとあはれとく色うらび
とゆらうのりりゆりしんがらふとあはれとく

赤子らんぼう丸そへねおまらうーや親子のまよむ
はははらまよむとこのこまにむすめうけしゆり
とまゆりしんがらふとあはれとく色うらびと
だまおののりりゆりしんがらふとあはれとく
わらわとあまのまよむれきりーあまのまよむ
まゆとひして赤子の神おまらうらむらうの
かたねふとこのこまにむすめうけしゆりゆり
ねのりーまゆらうとあまのまよむれきりゆり
と赤子のまよむれきりゆりゆりゆりゆりゆり
神とねじゆらふとあまのまよむれきりゆり
うらゆら母のまよむれきりゆりゆりゆりゆり
まゆらうのりりゆりしんがらふとあはれとく

申のすね *mean* のいままにふ人も母よふてられま
ら *おぼ* せりあしりつる *おぼ* せりそれらまこころやうごう
の *おぼ* せりつる *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
母よ今一考あつて *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
又 *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
こころ *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
し *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
と *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
申 *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
ま *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
あ *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
を *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり

佛はのり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
の *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
し *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
眼 *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
人 *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
免 *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
う *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
に *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
は *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
ふ *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
所 *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり
か *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり *おぼ* せり



ぞねく。なぐそくふいぢちちて候わつうのよひらう
 ぬらみ。法とんぬくつうくともこちとわいもいよ
 りさかろや生志がりのあさぢらうはあまゆ風いぢらく
 ちてさつはふらる福よとんあうことんめがらあ
 いむいけらあ石井あり。なぐそくああひてはま
 妙花のいあき回極愛をな中細果とつたねとほと
 うい。あまふいぢいわけくふらうとあはふんぞくしと
 たりあまて母をなごめいらこの中さういよけくはん
 じらにけいおねはらつうてな。やうこれなごくにあにけ
 つまらり。えいさうとんぬくつうくあまらんのあまこのま
 くふいけらあふいぢいあまのゆががのそくれを
 ぶとえこのまのひいさくつうやうふんてくれけい花もけ



大福んぶのいそりぬり今南代よつこふまを
 減乃大福んぶのいそりぬり今南代よつこふまを
 じゆえんよりぞくぐりまらけふされたよやこ乃
 んかくまふまにあえ佛神とたのこ親なりれ
 へげしあつこしよのあまたごのゆひ
 ちかこりしきせしれ

縁覚上人絵



日本七十四年

二十卷



